

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520208

研究課題名（和文） アメリカ文学と〈知識のコズモロジー〉

研究課題名（英文） American Literature and the Cosmology of Knowledge

研究代表者

宮本陽一郎（MIYAMOTO YOICHIRO）

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・教授

研究者番号：30143340

研究成果の概要（和文）：

筑波大学プレ戦略イニシアティブ「〈知識のコズモロジー〉、あるいは〈わかる〉とはどういうことか」と〈デザイン〉をキーワードにした共同研究を行なった。また『アメリカ文学評論』21号〈特集ネットワーク〉（2008年）と22号〈特集デザイン〉（2011年）、共著本『知の版図』（悠書館、2008年）を出版した。

研究成果の概要（英文）：

Together with the project “Cosmology of Knowledge, or What Makes Knowledge Intelligible?” (Pre-Strategic Initiative of the University of Tsukuba), we held meetings discussing various meanings of “Design.” We also published special issues of our academic journal *Review of American Literature* on “Network” (2008) and on “Design” (2011); we also co-authored a book *Domain of Knowledge* (Tokyo: Yushokan, 2008).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：アメリカ文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：アメリカ文学、知識のコズモロジー、デザイン、知識史、知識の枠組み

1. 研究開始当初の背景

文学をほかの分野（たとえば科学・哲学・芸術）と同様に〈知識〉の一形態にとらえ、その〈知識〉を可能にした〈枠組み〉を明らかにする。具体的には、英語では1語でも多様な意味を持つ単語をとりあげて、多角的に論じる。

2. 研究の目的

〈知識〉によって形成されるコズモロジーを個別に論じるだけでなく、その〈知識〉

が構成するコズモロジーの普遍性・全体像を論じる。

3. 研究の方法

時代限定・地域限定の個別事例から個別のコズモロジーに見られる普遍性を論じるとともに、普遍性によって構成される全体像が規定する個別のコズモロジーの位置を論じる。

4. 研究成果

2008年度と2009年度はそれぞれ年2回、2010年度は年5回の研究発表会、『アメリカ文学評論』21号〈特集ネットワーク〉と22号〈特集デザイン〉、共著『知の版図』（悠書館、2008年）

(1) 『アメリカ文学評論』21号〈特集ネットワーク〉（2008年）

- ①宮本陽一郎「KUROSAWA NOIRの『アメリカ』：ネットワーク文化論のために」
- ②三添篤郎「Something in the Air: 超心理学者所ジョセフ・バンクス・ラインのテレパシー研究」
- ③長谷川詩織「オスカー・ミショーのガイドブック：『克服』と人種をめぐる言説のネットワーク」
- ④稲垣伸一「*The House of the Seven Gables*における結婚制度と財産：コミュニティ・ネットワークにおけるフリーラブ」（特別寄稿）
- ⑤Joe Milutis, “Mystic America: All Secret Histories Revealed!”（特別寄稿）
- ⑥Walter S. H. Lim, “Networking and the Cultural Politics of Transnationalism in Russell Leong’s *Phoenix Eyes* and Shirley Goek-lin Lim’s *Among the White Moon Faces*”（特別寄稿）
- ⑦中田崇「シートミュージックのアメリカ：戦前大衆音楽の楽譜出版と情報ネットワーク」
- ⑧Hiroko Washizu, “Lapidary Prophecy: Graveyard Mineralogy of *The Scarlet Letter*”
- ⑨Yoshinari Yamaguchi, “The Panoramic Point of View and Visual Training for Americans: ‘Bird’s-Eye View’ Stories of Two Travelers”
- ⑩杉本裕代「ひとりぼっちの広場で：建築文化のネットワークを通じてみる”The Piazza”」

(2) 『アメリカ文学評論』22号〈特集デザイン〉（2011年）

- ①三添篤郎「利用可能な未来：冷戦期合衆国における未来学の編成」
- ②長谷川詩織「憂鬱なイヌイット族：ハドソン湾岸をデザインする映画『極北のナヌーク』の民族誌」
- ③Yoshinari Yamaguchi, “The Republic of Letters: Organizing Historical Knowledge in Early National America”
- ④鷺津浩子「地下のデザイン：『シムズの穴』の理論と実践」

⑤山口敬雄「『自然』のデザイン：シャンポリオンのヒエログリフ解読とソローの *Walden*」

⑥千葉洋平「デザインの余剰：ジジックとラクラウのポピュリズム論争からみる反資本主義闘争」

⑦Raphael Lambert, “Visual Narrative and Impressionist Dispositions in Steven Spielberg’s *The Color Purple*”

⑧Kimiko Hiranuma, “Is A Love Story Possible?: Negation of Identity Politics and Anti-Racial Realism in Octavia E. Butler’s ‘Bloodchild’”

(3) 鷺津浩子・宮本陽一郎編『知の版図——知識の枠組みと平米文学』（東京：悠書館、2008年）

- ①鷺津浩子「クジラ漁の始まったころ——『白鯨』と船舶位置確定」
- ②イーハブ・ハッサン、佐藤憲一訳「想像上の地図、想像力の地図——地図作成と文学に関する黙想」（特別寄稿）
- ③山口善成「旅する歴史家——腐乱し図・パーク万の歴史記述における空間性と土地の記憶」
- ④荒木正純「馬車と自動車の攻防——ジョイス『レースの後で』の交通表象」
- ⑤圓月勝博「萌えるキャラクターリズム——初期近代イギリスのテオフラストスとジェントルマン」
- ⑥佐藤憲一「起源付きのアメリカ——アメリカ哲学協会と〈アメリカ的〉知の枠組の成立」
- ⑦宮本陽一郎「大学と諜報——知識の枠組みとしてのOSS/OWI」
- ⑧中田崇「黒い音楽、白い楽譜——スコット・ジョップリンのピアノ・ラグタイム」
- ⑨羽村貴史「女性とホロコースト——ルステイックとオジックの小説を中心に」
- ⑩E・B・バレストリエリ、杉本裕代訳「認識論と詩——デイヴィッド・ムラのうつろいゆく諸相」

(4) 2010年研究会（全5回）

①第1回研究会「遡るデザイナー—過去を復元する」5月8日（会場：ヴィジョンセンター秋葉原）

【第1部】パネル・ディスカッション
発表1：「古代エジプトのデザイナー—ヘンリー・デヴィッド・ソローとワシントン・モニュメントをめぐって」山口敬雄（東京福祉大学・講師）
発表2：『妖精の女王』における中国という「往古」：17世紀末イングランドにおける「起源」の探究 松田幸子（筑波大学外国語センター・準研究員）

コメンテータ：山中美知（聖徳大学非常勤講師）・橋本順光（大阪大学文学研究科）

【第2部】読書討論会：三中信宏『分類思考の世界』『系統樹思考の世界』

討論者：横山幹子（筑波大学図書館情報メディア研究科）、三中信宏（独立行政法人農業環境技術研究所）、鷺津浩子（筑波大学人文社会科学研究科）

②第2回研究会「未来の樹——明日をよめるか？」7月11日（会場：秋葉原ネット・カンファレンス）

【第1部】パネル・ディスカッション

発表1：「サステナビリティ学における未来の位置づけ」木村武史（筑波大学人文社会科学研究科 哲学・思想専攻：宗教学）

発表2：「利用可能な未来」三添篤郎（筑波大学博士課程・人文社会科学研究科 文芸・言語専攻：アメリカ文学）

コメンテータ：田中二郎（筑波大学システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻）

【第2部】読書討論会：デイヴィッド・オレル『明日をどこまで計算できるか？』

討論者：山崎朱音（筑波大学博士課程・人間総合科学研究科 コーチング学専攻：舞踊研究）、赤松勝之（筑波大学博士課程・システム情報工学研究科 地震防災/構造動力学研究室）、高尾将幸（東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科）

③第3回研究会「知覚する／される身体——〈感じる〉のトランスレーション」10月3日（会場：秋葉原ネット・カンファレンス）

発表1：「出来事としての Writing Desk—Henry David ThoreauのWaldenにおける『書くこと』と感覚」杉本裕代（東京都市大学知識工学部・アメリカ文学）

発表2：「身体感覚のデザイン—椅子と造形をめぐる太古的自然性について」矢田部英正（武蔵野身体研究所・体育学）

発表3：「『音色とは何か』をめぐる一意識と定義の変遷」寺澤洋子（筑波大学 TARA センター・音響学）

コメンテータ：五十嵐浩也（筑波大学人間総合研究・工業デザイン）

④第4回研究会「日常をデザインする——技術をめぐる知的営為」11月28日（会場：秋葉原ネット・カンファレンス）

発表1：「『未来の住宅』のデザインをめぐる——1920年代のチェコから」森下嘉之（筑波大学非常勤研究員：歴史学・東欧近現代史）

発表2：「聞くことの転換——ルッソロの騒音芸術における知覚と技術の問題」山下尚一（筑波大学：哲学・美学）

発表3：「家というダイナミクス——マレーシアの低価格住宅の事例から」櫻田涼子（筑波

大学/京都大学・研究員：文化人類学・華人研究）

コメンテータ：岡山理香（東京都市大学：建築・デザイン史）

⑤第5回研究会3月5日～6日（会場：筑波大学）

【第1部】〈デザイン〉による／よらない〈わかる〉

鷺津浩子（筑波大学人文社会科学研究科・教授）：「天上のデザイン」

山下尚一（筑波大学・非常勤講師）：「ジョルジュ・カンギレムにおける生命と概念の関係について」

中川智視（武蔵野美術大学・非常勤講師）：「プレモダニズムの科学思考：ラフカディオ・ハーンの日本美術理解を中心に」

千葉洋平（筑波大学DC）：「革命のデザインとその余剰」

【第2部】〈デザイン〉のデザイン

五十嵐浩也（筑波大学人間総合科学研究科・准教授）：「METADESIGN」

岡山理香（東京都市大学・准教授）：「建築のデザインをめぐる——私たちは、どのように‘デザイン’という言葉を使っているのか？」

矢田部英正（武蔵野身体研究所主宰）：「『坐』と『座』のデザイン～日本家屋における身体と空間の連続性について」

山口恵里子（筑波大学・准教授）：「家具の中世主義とジャポニズム——19世紀英国の家具デザイン」

【第3部】ライフデザイン

清水諭（筑波大学人間総合科学研究科・教授）：「生きている身体をどのように捉えるか：問題提起」

高尾将幸（東洋大学・助教）：「健康・医療政策と身体の政治」

久木元真吾（公益財団法人家計経済研究所・次席研究員）：「生命保険の意味論的分析」

塚原東吾（神戸大学・教授）：「大脳中心主義のデザイン：ライフデザイン・バイオシステムにおける認知・指令系の中心性という神話の由来と変遷、そしてデイヴィッド・ノーブルの『アメリカ・バイ・デザイン』について」

【クロージング・ノート】山口善成（県立高知女子大学・准教授）

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計15件）

①鷺津浩子「地下のデザイン——〈シムズの穴〉の理論と実践」『アメリカ文学評論』22

号〈特集デザイン〉(2011):52-64. 査読無

② Raphaël Lambert, “Visual Narrative and Impressionist Dispositions in Steven Spielberg’s *The Color Purple*” 『アメリカ文学評論』22号〈特集デザイン〉(2011):106-125. 査読有

③ Etsuko Taketani, “Colored Empires in the 1930s: Black Internationalism, the U. S. Black Press, and George Samuel Schuyler,” *American Literature* 82.1 (2010): 121-49. 査読有

④ Etsuko Taketani, “Literature and Culture Workshop I: Summary of Discussion,” *Nanzan Review of American Studies* (Proceedings of the NASSS 2010) 32: 183-185. 査読有

⑤ Kiyoko Magome, “Democracy Realized through Music and Its Collaboration with Literature,” *Soundings: An Interdisciplinary Journal* 92(3-4) (2010): 331-46. 査読有

⑥ Kiyoko Magome, “Transition from Modernist to Postmodernist Quartets: Lawrence Durrell’s and Vladimir Nabokov’s Musico-Literary Quartets,” *Notes on Contemporary Literature* 39.5 (2009), 7-9. 査読有

⑦ Raphaël Lambert, “Race and the Tragic Mode in Ernest J. Gaines’s *A Gathering of Old Men*,” *Southern Literary Journal*, 42.2 (Spring 2010): 106-125. 査読有

⑧ 宮本陽一郎「KUEOSAWA NOIRの『アメリカ』——ネットワーク文化論のために」『アメリカ文学評論』〈特集ネットワーク〉21(2009): 1-18. 査読無

⑨ Hiroko Washizu, “Lapidary Prophecy: Graveyard Mineralogy of *The Scarlet Letter*,” *Review of American Literature* 21 (2009): 64-72. 査読無

⑩ Etsuko Taketani, “Review of *To Set This World Right: The Antislavery Movement in Thoreau’s Concord* (Ithaca: Cornell UP, 2006) by Sandra Harbert Petruionis” 『英文学研究』86 (2009): 87-93. 査読有

⑪ 馬籠清子「音楽は、その姉妹である文学をどう刺激するか?」『筑波大学英語教育: 創刊30周年記念特別号』(2009): 130-134. 査読有

⑫ 宮本陽一郎「大学と諜報——知識の枠組みとしてのOSS/OWI」鷺津浩子・宮本陽一郎編『知の版図——英米文学と知識の枠組み』(悠書館、2008年)、189-219. 査読無

⑬ 鷺津浩子「噴火口の口——ラルフ・ウォルド・エマソン初期講演と地質学」『文藝言語研究 文藝篇』54(2008): 1-14. 査読有

⑭ 鷺津浩子「クジラ漁の始まったころ——『白鯨』と船舶位置確定」鷺津浩子・宮本陽一郎編『知の版図——英米文学と知識の枠組み』(悠書館、2008年)、3-42. 査読無

⑮ 馬籠清子「文学が音楽を通して体験させるアメリカ資本主義: William Gaddis が作る聴覚的ディスコース」『日本英文学会第80回大会 Proceedings』(2008)、158-160. 査読有

[学会発表] (計15件)

① 鷺津浩子「天上のデザイン」(筑波大学プレ戦略イニシアティブ〈知識のコズモロジー〉3月研究会)、2011年3月5日

② Raphael Lambert, “The Transatlantic Slave Trade and Theories of Community,” *American Literature Society of Japan, Tokyo Chapter*, January 29, 2011, Keio University

③ Etsuko Taketani, “Literature and Culture Workshop I,” moderator, Nagoya American Studies Summer Seminar, July 25, 2010, Nanzan University.

④ Kiyoko Magome, “Lawrence Durrell’s Alexandria in the Discursive Structure of ‘One and Four,’” *International Lawrence Durrell Society*, July 8, 2010, New Orleans, U.S.A.

⑤ Hiroko Washizu, “Soil and Dust: Engraving *The Scarlet Letter*,” *Nathaniel Hawthorne Society (U.S.)*, June 11, 2010, Concord, Massachusetts, U.S.A.

⑥ Raphael Lambert, “The Middle Passage: Film Posters and the Meaning They Create,” *Society for Cinema and Media Studies*, March 17-21, 2010, Los Angeles, U.S.A.

⑦ Raphael Lambert, “From Opera Comique to MTV’s *Carmen*,” *Carmen and Her Others Conference*, February 11-12, 2010, University College of London, UK.

⑧ Hiroko Washizu, “Optics of Green Spectacles,” *Edgar Allan Poe 3rd International Conference*, October 11, 2009, Philadelphia, Pennsylvania, U.S.A.

⑨ 宮本陽一郎「Y F Z 牧場の決闘——冷戦とポリガミー」、「アメリカと暴力」研究会、2009年2月8日、成蹊大学アジア太平洋研究センター。

⑩ Raphael Lambert, “Men of the Middle Passage and Middle Passage Men: Transatlantic Slave Trade and Poetic Imagination,” *日本アメリカ文学会*、2008年10月11日、西南学院大学

⑪ 馬籠清子「音楽は、その姉妹である文学をどう刺激するか」筑波英語教育学会、2008年6月21日、筑波大学

⑫ Hiroko Washizu, “Celestial Hieroglyphics,” Nathaniel Hawthorne Society (U.S.), June 14, 2008, Bowdoin College, Maine, U.S. A.

⑬ 馬籠清子「文学が音楽を通して体験させるアメリカ資本主義」日本英文学会、2008年5月25日、広島大学

⑭ Etsuko Taketani, “Spies and Spiders’: Langston Hughes, Agnes Smedley and the Cold War in Asia,” Modern Language Association, December 28, 2008, San Francisco.

⑮ Raphael Lambert, “Re-Drawing the Slave Trade: Francois Bourgeon’s *Les passangers du vent*,” Modern Language Association, December 28, 2008, San Francisco.

[図書] (計3件)

① 鷺津浩子・宮本陽一郎編『知の版図——英米文学と知識の枠組み』(悠書館、2008年) 共著、342ページ：3-42 (鷺津)、189-219 (宮本)。

② Kiyoko Magome, *The Influence of Music on American Literature Since 1890: A History of Aesthetic Counterpoint* (Edwin Mellen, 2008) 単著、282ページ

③ Hiroko Washizu, *Visions of the Industrial Age 1830-1914: Modernity and the Anxiety of Representation in Europe*, eds. Minsoo Kang and Amy Woodson-Boulton (Ashgate, 2008) 共著、371ページ：249-267。

[その他]

ホームページ等

「〈知識のコズモロジー〉、あるいは〈わかる〉とはどういうことか」

<http://lynxx.hass.tsukuba.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮本 陽一郎 (MIYAMOTO YOICHIRO)

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・教授

研究者番号：30143340

(2) 研究分担者

鷺津 浩子 (WASHIZU HIROKO)

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・教授

研究者番号：30149372

竹谷 悦子 (TAKETANI ETSUKO)

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・教授

研究者番号：60245933

馬籠 清子 (MAGOME KIYOKO)

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・講

師

研究者番号：60463816

ロンベール ラファエル (Raphael Lambert)

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・講師

研究者番号：10431660